

# ベトナム國家圖書館の古醫籍書誌 補遺(二)

眞 柳 誠

## 【叢書】

R.1077~1112 (新鐫海上懶翁) 醫宗心領全帙)

R.1077 首卷

刊本一冊、序一二葉・本文六三葉、ベトナム包背改裝。濫引き焦げ茶中手表紙、書高二四・八×幅一四・三cm。帙なし。外題なく、書根・天邊に「海上卷首」を縦書き墨書。首卷冊に嗣徳丙寅(一九〇一年)(一八六六)の武春軒「奉輯海上心領遺書原引」二葉あり、こう記す。本書は失傳していたが嗣徳八年(一八五五)に本書(全二八集)の一、二集を得てから搜索を始め、醫家や儒家から計一五集までを得た。同一七年(一八六四)に香山縣情艷社の懶翁第五代子孫より正本計二一集を得て一〇中の七、八となったので、本書を廣めたい、とある。進士・黎菊齡の無記年寫刻體序一葉あつて、武春軒が本書五〇餘卷を蒐集して一〇中の七、八となり出版したいので序を求め、彼の努力でほぼ完全になるだろうと記す。その末尾三行に醴銀者名・額あり。景興庚寅(三二一年)(一七七〇)の海上懶翁黎氏「懶翁心領自序」六葉あつて、醫道の意味や修學の経緯、數

『人文コミュニケーション学科論集』十一号、五一・七三頁

年かけて輯成した一編を「懶翁心領」と名付け家藏すると記す。その末尾半葉に醴銀者名・額あり、咸宜元年(一八八五)の「北寧省慈山府武江縣大壯社同人寺住持釋清高校刻」の刊記を末尾に記す。次に「新刊海上懶翁小引」三葉あり、こう記す。武春軒が海上懶翁(釋清高と同郡という)の醫書五一卷を見せて刊行を依頼。しかし經費がなく一〇年逡巡し、嗣徳三〇年(一八七七)に紳豪の刊行助成があり遺稿四卷も名家より得、同三一年にも多くの捐貨があつた。そこで嗣徳三二年(一八七九)から校刻を開始し、咸宜元年(一八八五)に完了したという。その後に「大壯社同人寺藏版」の刊記と醴銀・銀者の名と額を記し、以上で計一二葉。次から首卷で、懶翁の「附錄奉先師禮儀」では科擧を棄て醫に就き十餘年で『馮氏錦囊秘録』全部を得て奥義に達したので、先師の神像を紙上に描いて顯彰し、その祭儀式を備録するという。以下は、上座列位に神農・伏羲・黃帝、東配列位に岐伯・華陀等一二名、西配列位に張機・王太僕等一二名、中座列位中央に天朝先正先師海鹽馮氏號楚贈(馮兆張)神位あり、左右に乾正立齋先生等二〇名が第二葉まで、以下は左班列位・右班列位に皇甫謐など中國の名醫を第八葉まで列記。次に「春祭排列位次圖」あつて、馮兆張を中央に祭祀する

五一

配置圖、祝文・儀節・告文が第一四葉まであり、馮兆張を天朝先正先師と祀る。第一五葉に「醫裡儉閑俚言附志」と題して二〇葉まで詩文など、二二～二三葉に「醫訓格言」を記す。二三葉後半より凡例あつて、『内經』を本、『錦囊』『景岳』を提綱として群書を參合、十餘年で驗した心得を編纂して二八集・六六卷とし、各集に集名・小引・目次を記したという。以下は集名ごとに二行前後で提要を第二七葉まで記すが、計二七集しかない。第二六「傳心秘旨集」と第二七「尾集」の間に一行空くので、出版段階でも集名未詳の部分があつたらしい。第二八～三一葉に總目次あつて首卷、卷一内經要旨集、卷二醫家冠冕集、卷三～五醫海求源集、卷六玄牝發微集、卷七坤化採真集、卷八導流餘韻集、卷九運氣秘典集、卷一〇・一一藥品彙要集、卷一二・一三嶺南本草集、卷一四外感通治集、卷一五～二四百病機要集、卷二五醫中關鍵集、卷二六・二七婦道燦然集、卷二八坐草良模集、卷二九～三三幼幼須知集、卷三四～四三夢中覺痘集、卷四四麻疹準繩集、卷四五心得神方集、卷四六微做新方集、卷四七～四九百家珍藏集、卷五〇～五七行簡珍需集、卷五八（修刻本は五八～六〇）醫方海會集、卷五九（修刻本は六一）醫陽案集、卷六〇（修刻本は六二）醫陰案集、卷六一（修刻本は六三）傳心秘旨集、（修刻本は卷六四問策集あり）尾卷・上京記事集を記す。各卷には上記の集名および細目を記すが、卷一二・一三・一五・一六・一九～二四・五八の計一一卷には細目がない。第三三葉に「醫業神章」と題し、第六三葉まで生涯の行醫經驗と醫學の最重要點を漢文で記し、末尾に刊行醴銀・錢者名・額が一葉弱ある。料紙は薄

葉ゾー紙で、僅かに黃變する。有界、四周雙邊、版心白口・雙內向黑魚尾、魚尾間に「首卷 原引（語・自序）神章」葉次、第三九葉下象鼻のみに「秋宣（刻工名？）」を刻す。一九世紀刊本で、字様は明前期版に稍似る。每半葉匡郭、縦二〇・一×横一二・七cm、八行・行二一字、小字雙行・行二二字。四周雙邊に「THU VIEN / QUOC GIA」（國家圖書館）の藏印記。全書に朱點・朱引き、書き入れあり。蟲損・破損なし。辰・宗字の避諱缺筆あり。

本書各卷の序や尾卷の記述からすると、海上懶翁（黎有倬、一七二四～一七九一）は一七六〇年前後に儒を棄て醫に轉じたらしい。

首卷の自序と凡例より、懶翁は一七七〇年の數年前より中國醫學最古典の『内經』（『素問』『靈樞』）を基本、中國個人醫學叢書の『錦囊秘錄』全五〇卷（一七〇二初版）と『景岳全書』全六四卷（一七一〇初版）をモデルとして本書の著述を開始している。最も後期の自序は卷九の一七八六年なので、それから没する一七九一年以前までに醫學叢書の本書二八集・六六卷（うち首卷・尾卷各一卷）を完成させたと考えるべきだろう。武春軒の一八六六年序からすると、春軒は一八五五年にその一、二集を得てから蒐集を開始、一八六四年に懶翁の第五代より正本計二二集を得ている。同人寺住持・釋清高の小引からすると、武春軒は一八六七年前後に蒐集した計五一卷の出版を清高に依頼。清高も一八七七年に遺稿四卷を得、一八七九年から一八八五年にかけて計五五卷を同人寺で校刻したことが分かる。現存刊本の調査からしても、未刊に終わったのは卷一五・一六・一九～二四・五九・六〇・六四の計一一卷らしい。また現存刊

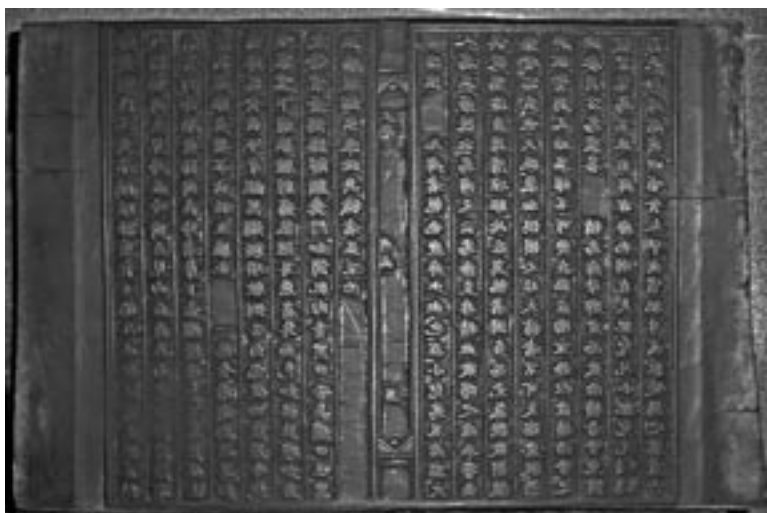
本には計二十七集しか見えないが、缺けているのは修刻後印本の首巻総目録のみに記される「巻六四 問策集」の一集だろう。また先印本首巻総目録の巻五九〜六一を、後印本は巻六一〜六三に修刻しており、本文の巻次と合致するように直している。なお現存刊本巻一二・一三の「嶺南本草」は、一七六一年初版の『南藥神效』のほぼ轉載で懶翁の自著とは認められず、題署にも武春軒の名がないので、清高が得たという遺稿四巻の一部に該當するらしい。

本書刊記にある「北寧省慈山府武江縣大壯社同人寺」は、ハノイの東三五キロメートルほどの Bắc Ninh バクニン（北寧）市に現在もある。當地はベトナム傳統の Dô Zô（楮のベトナム音）紙製造（素材は楮コウゾではなく、ジンチョウゲ科の *Rhamnoneuron balansae* Gilg (Ducke)、漢名・鼠皮樹の鞣皮）でも有名。そこで二〇〇九年九月一日、ベトナム社会科学學院漢喃研究所の DINH KHAC THUAN（丁克順）教授に案内いただき北寧市で調査した。下寫眞の同人寺を訪ねたところ、かつて寺には佛典の版本もあつたが、それらはある段階で南（サイゴン？）に持って行かれ、のち行方不明のものと。幸い本書の版本は完成間近のバクニン博物館に保存されており、首巻、卷一〜九、一一、一三、一四、一七、一八、二五〜三二、三五、三六、三八〜四三、四六、四八〜五一、五八、六一、六二、尾巻の現存が確認された。したがって刊行が判明している全五五巻のうち、缺けた版本は卷一〇、一二、三四、三七、四四、四五、四七、五二〜五七、六三の計一四巻となる。ただし現存巻でも缺葉はあるので、全體の六〇〜七〇%ほどが現存するだろう。これら最終

の刻板が一八八五年につき百数十年前の物となるが、ひび割れや蟲損もなく、次頁寫眞のように良好な状態だった。版本は中國の二倍ほど厚く、一般の日本版よりやや厚い。また表面と裏面の文字を上下逆方向に彫板する點が、左右逆方向に彫板する日中と異なる。なお一部だが佛典らしき版本もあつた。



バクニン市の同人寺山門



バクニン博物館所蔵の本書版木  
(巻31幼須知集・土巻第5葉)

# R.1078 巻1

刊本一冊九九葉、ベトナム六鍼眼装。澁引き焦げ茶中手表紙、書高二五・三×幅一五・〇cm。帙なし。外題なく、書根・天邊に「内經要旨」を縦書き墨書。巻一首に「新鐫海上醫宗（缺筆）心領全帙内經要旨卷之一／海上懶翁黎氏纂輯 後學唐郡武春軒奉較」と題

し、見出し陰刻の小引（無記年、末尾は「黎氏別號海上懶翁引」）。凡例・目次（陰陽・化機・臟腑・病能・治則・頤養・脈經）計一葉あり。以下に本文九八葉あり、陰陽・化機・臟腑・病能・治則・頤養・脈經の篇名を白字で刻す。治則部分に「李東垣七方圖（大小緩急奇偶複の處方）」、また『靈樞』の引用あり。漢文書。跋・識語なく、書末釀金者名など二行を墨丁に作る。料紙は中葉ゾー紙で、僅かに黄變。有界、四周雙邊、版心白口・雙内向黒魚尾、魚尾間に「内經要旨 陰陽（脈經）葉次（通し）」を刻す。一九世紀刊本で、字様は明前期に稍似る。每半葉匡郭、縦一九・八×横一二・七cm、八行・行二一字、小字雙行・行二二字。四周雙邊で「THU VIEN / QUOC GIA」（國家圖書館）の藏印記。全書に朱點・朱引きあり、書き入れなし。蟲損・破損なし。

當巻一「内經要旨」は『内經』の最重要點を七項目に分けて抜粹し、小字で注を加える。具体的な成立年は未詳。

# R.1079 巻1

刊本一冊一〇二葉、ベトナム六鍼眼装。澁引き焦げ茶中手表紙、書高二五・二×幅一五・一cm。帙なし。外題ほかなく、書根・天邊に「海上醫家冠冕」を墨書。巻頭に「新鐫海上醫宗（缺筆）心領醫家冠冕全帙卷之二／海上懶翁黎氏纂輯 後學唐郡武春軒奉較」と題し、無記年の懶翁小引に『醫學入門』を参考に編纂という。目次一葉半あつて、陰陽・五行く水火病・全眞症まで。以下本文は篇名を陰刻の白字、漢文で記し、内景等の圖説あり。跋・識語なし。料紙

は中葉ゾー紙で、一部黄變する。有界、四周雙邊、版心白口・雙内向黒魚尾、魚尾間に「醫家冠冕 篇名 通卷葉次」を刻す。每半葉匡郭、縦二〇・一×横一二・九cm、八行・行二字、小字雙行・行二字。一九世紀刊本で、字體は明前期に稍似る。四周雙邊で「THU VIEN / QUOC GIA」(國家圖書館)の藏印記。全書に朱點・朱引きあり、書き入れ等なし。蟲損・破損なし。

當卷二「醫家冠冕」は陰陽五行・易・内景・臟腑・經脈など、醫學の綱領を記す基礎理論書。具體的成立年は未詳。

# R.1080 卷三〇五

刊本一冊五〇+四五+四五葉、ベトナム包背裝。澁引き焦げ茶中手表紙、書高二四・七×幅一四・三cm。帙なし。外題ほかなく、書根・天邊に「海上卷三四五」を縦書き墨書。書頭に「新鐫海上醫宗(缺筆) 心領全帙卷之三／醫海求源集」と題す。景興四三年(一七八二)の懶翁小引一葉半あり、儒を棄て醫に就き二〇餘年といひ、

「醫海求源」三卷を著したという。目次半葉あり、孟卷(陰陽篇・臟腑篇・仲卷(病機篇・化機篇)・季卷(治則篇・醫則篇))の九篇四七五章を記す。卷頭に「醫海求源孟卷／海上懶翁黎氏纂輯／後學唐郡武春軒奉較」と題し、以下本文は「陰陽篇 該四十三章」から始まり、五〇葉まで。卷末に醜金者名を刻す。次に「新鐫海上醫宗(缺筆) 心領全帙卷之四／醫海求源仲卷 海上懶翁黎氏纂輯／病機篇該一百四十章 後學唐郡武春軒奉較」と題し、以下に小引・目次なし。本文第四五葉末尾に「仲卷終」以下に醜金者四名の額を記す。

す。次に「新鐫海上醫宗(缺筆) 心領全帙卷之五／醫海求源季卷／海上懶翁黎氏纂輯／後學唐郡武春軒奉較／治則篇該八十八章 興安施黃武三安奉攷」と題す。以下に小引・目次なく、本文第四五葉末尾に「季卷終」。以下に醜金者一〇名の額を記す。跋・識語なし。料紙は薄葉ゾー紙で、全體に軽く黄變する。有界、四周雙邊、版心白口・雙内向黒魚尾、魚尾間に「醫海孟(仲・季) 卷 篇名 各卷葉次」を刻す。每半葉匡郭、縦二〇・一×横一二・五cm、八行・行二字、小字雙行・行二字。一九世紀刊本で、字樣は明正統版に似る。やや後印。四周雙邊で「THU VIEN / QUOC GIA」(國家圖書館)の藏印記。全書に朱點・朱引き、書き入れあり。蟲損・破損なし。

當卷三〇五の「醫海求源」三卷は懶翁の小引より一七八二年の成立。先哲醫家の格言四七五章を九篇に分類し、各々に説明を加える。

# R.1081 卷六

刊本一冊一〇〇葉、ベトナム六鍼眼裝。澁引き焦げ茶中手表紙、書高二五・六×幅一五・二cm。帙なし。外題ほかなく、書根・天邊に「玄牝發微」を縦書き墨書。書頭に「新鐫海上醫宗(缺筆) 心領全帙卷之六」と題し、無名氏(懶翁)・無記年の小引一葉半に先天腎氣と六味・八味丸の重要性を述べる。目録一葉あつて、先天太極圖說・人身中太極圖說・先天論・六味變法・合用最宜藥品・百病兼治・錦囊增損十二法・錦囊八味治案の三六目を記す。卷頭に「玄牝

發微卷／海上懶翁黎氏纂輯／後學唐鄆武春軒奉較」と題し、以下本文は先天太極圖說から始まる。第四一葉ウラ八味變法以下の五行を未刻墨丁に作り、第一〇〇葉書末に「含龍寺沙門奉書／玄牝發微卷終」と記す。卷末に釀金者名なし。跋・識語なし。漢文書で、書中の篇名・方名を多く陰刻白字に作る。料紙は中葉ゾー紙で、軽く黄變する。有界、四周（一部左右）雙邊、版心白口・雙内向黒魚尾、魚尾間に「玄牝發微卷 篇名 通卷葉次」を刻す。每半葉匡郭、縦一九・〇×横一二・三cm、八行・行二二字、小字雙行・行二一字。一九世紀刊本で、字體は明正統版に似る。稍後印。四周雙邊で「THU VIEN / QUOC GIA」（國家圖書館）の藏印記。一部に朱點あり。蟲損・破損なし。

當卷六「玄牝發微」は先天腎氣・水火の醫論と六味・八味丸の方論を記す書で、趙獻可『醫貫』（二六一七初版）の圖も含めた影響が大きい。當卷の具體的成立年は未詳。

# R.1082 卷七

刊本一冊六四葉、ベトナム六鍼眼裝。澁引き焦げ茶中手表紙、書高二五・六×幅一五・二cm。帙なし。外題ほかなく、書根・天邊に「坤化採眞」を縦書き墨書。書頭に「新鐫海上醫宗（缺筆）心領坤化採眞全帙卷之七／海上懶翁黎氏纂輯 後學唐鄆武春軒奉較」と題す。次に無記年の懶翁小引一葉あつて、脾胃後天氣血の重要性を述べ、先天水火の「玄牝發微」卷に續けて當卷を編纂したと記す。目次一葉あつて、後天文王卦位圖說・身中後天圖說・後天論・人參養

榮湯・養榮奉旨・養榮加減・錦囊變法を記す。卷頭に内題なく、本文は後天文王卦位圖說から始まる。六四葉書末に「含龍／沙門奉書／坤化採眞卷終」と記し、卷末に釀金者四名あり。跋・識語なし。漢文書で、書中の篇名・方名を多く陰刻白字に作る。李東垣の説を中心に、朱丹溪・立齋（薛己）・節庵（陶華）・寶鑑（羅天益）衛生寶鑑」ほかを引用する。料紙は中葉ゾー紙で、軽く黄變する。有界、四周雙邊、版心白口・雙内向黒魚尾、魚尾間に「坤化採眞卷 篇名 通卷葉次」を刻す。每半葉匡郭、縦一九・九×横一二・六cm、八行・行二二字、小字雙行・行二一字。一九世紀刊本で、字樣は明正統版に似る。後印で文字不鮮明多し。四周雙邊で「THU VIEN / QUOC GIA」（國家圖書館）の藏印記。一部に朱點あり。蟲損・破損なし。

當卷七「坤化採眞」は後天の脾胃氣血の醫論と、補中益氣湯・四君子湯・四物湯・八珍湯・十全大補湯・歸脾湯・人參養榮湯の加減も含めた方論を記し、李東垣流の書。卷六に續けての編纂だが、具體的成立年は未詳。

# R.1083 卷八

刊本一冊五三葉、ベトナム六鍼眼裝。澁引き焦げ茶中手表紙、書高二五・七×幅一五・〇cm。帙なし。外題ほかなく、書根・天邊に「導流餘韻」を縦書き墨書。書頭に「新鐫海上醫宗（缺筆）心領全帙卷之八／導流餘韻卷 小引」と題す。この無記年の懶翁小引二葉では、「劉・張・朱・王太僕・立齋・景岳・馮氏諸先輩」の論に補

遺すると述べる。目次一葉あつて、醫理醫意論・論人身中有一太極  
 論單熱亡陰危人甚速并治法を記す。巻頭に「導流餘韻卷 海上懶  
 翁黎氏纂輯／後學唐郡武春軒奉較」と題し、本文は醫意醫理論から  
 始まる各種の醫論。論中には『雷公炮炙』『伊贇(尹)湯液』『難經』・  
 仲景『傷寒』・土安『甲乙』・啓玄子・錢仲陽『診脈』・李辰(時)  
 珍『本草綱目』に言及し、劉河間・『醫學正傳』・景岳・『(壽世)保  
 元』『醫要(集覽?)』『簡易(方論?)』『士林三書』『醫宗說約』な  
 どを引く。二七・五〇葉に趙氏『醫貫』を引き、五三葉書末に醱金  
 者一〇名あつて「導流餘韻終」と記す。跋・識語なし。漢文書で、  
 書中の篇名・方名を多く陰刻白字に作る。三六〇四五葉のみ明朝體  
 で匡郭大、他葉は正統に似た字樣。料紙は中葉ゾー紙で、軽く黃變  
 する。有界、四周雙邊、版心白口・雙内向黒魚尾、魚尾間に「導流  
 餘韻卷 通卷葉次」を刻す。每半葉匡郭、縦二〇・三×横一二・七  
 cm、八行・行二一字、小字雙行・行二一字。一九世紀刊本、後印で  
 文字不鮮明多し。四周雙邊で「THU VIEN / QUOC GIA」(國家圖書  
 館)の藏印記。一部に朱點あり。蟲損・破損なし。

當卷八「導流餘韻」は、各書で論じられてきた醫理・病理・治法  
 ほかの問題について、懶翁の意見を記した醫論の書。具体的成立年  
 は未詳。

# R1084 卷九

刊本一冊六八葉、ベトナム六鍼眼裝。澁引き焦げ茶中手表紙、書  
 高二五・八×幅一五・二cm。帙なし。外題ほかなく、書根・天邊に

「運氣祕典」を縦書き墨書。書頭に「新鐫海上醫宗(缺筆) 心領運  
 氣祕典全帙卷之九／海上懶翁黎氏纂輯 唐郡武春軒奉較」と題す。  
 黎朝景興四十七歲(一七八六) 孟春中浣就稿の懶翁小引二葉に、幼  
 少時に兵亂を避けて懼州で學び、五運六氣に目覺めた、と述べる。  
 次に學易而後醫論・集例三葉あり、目次一葉に望氣說・風旗式・渾  
 天方位占雲圖・地以五制之圖・運氣論を記す。本文は望氣說から始  
 まり、五運六氣などの各種圖說・論・歌あり。六八葉書末に「運氣  
 祕典終」と記し、醱金者名なし。跋・識語なし。漢文書で、書中の  
 篇名を多く陰刻白字に作る。料紙は中葉ゾー紙で、軽く黃變。有  
 界、四周雙邊、版心白口・雙内向黒魚尾、魚尾間に「運氣祕典 通  
 卷葉次」を刻す。每半葉匡郭、縦一九・七×横一二・八cm、八行・  
 行二一字、小字雙行・行二一字。一九世紀刊本、正統に似た字樣。  
 後印で文字不鮮明多し。四周雙邊で「THU VIEN / QUOC GIA」(國  
 家圖書館)の藏印記。一部に朱點あり。蟲損・破損なし。  
 當卷九「運氣祕典」は運氣論の書で一七八六年の成立。

# R1085 卷一〇

刊本一冊六三葉、ベトナム六鍼眼裝。澁引き焦げ茶中手表紙、書  
 高二五・八×幅一五・二cm。帙なし。外題に「藥品上卷」、書根・  
 天邊に「海上藥品上卷」を縦書き墨書。書頭に「新鐫海上醫宗(缺  
 筆) 心領全帙卷之十／藥品彙要上 小引」と題す。無記年の懶翁小  
 引一葉に「神農三品一千八百九十二種」「潔古珍珠囊百品」「丹溪七  
 十二品」といい、この編では百五十品を氣味效能で五行每部三十品

に分類すると述べる。次に目次二葉に五味論・藥品陰陽辨・三治論・始因論・藥身根梢辨・水火製造法…の總論と、火部(肉桂・大附・琥珀・燈心)・木部(當歸・白芍・龍膽草・麻黃)・土部(白朮・茯苓・草菓・檳榔)・金部(人參・黃耆・瞿麥・香需)・水部(生地・鹿茸・紫河車・包衣水)の各論の項目を記す。集例では『錦囊藥性』を中心に、『景岳』『顧生』『入門』『雷公炮炙』『本草綱(綱)目』も参合したと述べる。本文各論は火部・肉桂からで、藥名以下に品種・品質・氣味・歸經・七情、また主治・合用・禁用・製法の項目を立てて記載し、末尾に藥論あり。第六三葉の書末は木部の龍膽草・麻黃・麻黃根までで、『藥品上卷終』と記し、釀金者名なし。跋・識語なし。漢文書で、書中の藥名・項目名を多く陰刻白字に作る。料紙は中葉ゾー紙で、軽く黄變する。有界、四周雙邊、版心白口・雙内向黒魚尾、魚尾間に「藥品上 藥名 通卷葉次」を刻す。每半葉匡郭、縦一九・九×横一二・九cm、八行・行二一字、小字雙行・行二一字。一九世紀刊本、明正統版に似た字様。後印で文字不鮮明多し。四周雙邊で「THU VIEN / QUOC GIA」(國家圖書館)の藏印記。一部に朱點あり。蟲損・破損なし。

## R.1086 卷一一

刊本一册八一葉、ベトナム六鍼眼裝。澁引き焦げ茶中手表紙、書高二五・八×幅一五・二cm。帙なし。外題に「藥品下卷」、書根・天邊に「海上藥品下卷」を縦書き墨書。目録なし。書頭に「新鐫海上醫宗(缺筆)心領全帙卷之十一／藥品彙要下 土部」と題し、以

下は土部の白朮・白茯苓から水部の紫河車・包衣水まで記す。記載形式は卷一〇に同じ。第八一葉の書末に「藥品下卷終」と記し、以下に釀金者一名を列記。跋・識語なし。漢文書で、書中の藥名・項目名を多く陰刻白字に作る。料紙は中葉ゾー紙で、軽く黄變する。有界、四周雙邊、版心白口・雙内向黒魚尾、魚尾間に「藥品下 藥名 通卷葉次」を刻す。每半葉匡郭、縦二〇・二×横一二・四cm、八行・行二一字、小字雙行・行二一字。一九世紀刊本、嘉靖・萬曆初期に似た字様。後印で文字不鮮明多し。四周雙邊で「THU VIEN / QUOC GIA」(國家圖書館)の藏印記。一部に朱點あり。蟲損・破損なし。

當卷一〇・一一「藥品彙要上・下」二卷は一五〇藥を収める本草書で、五行の火部・木部・土部・金部・水部に各三〇藥を分類するのは、中國ほかに見えない獨特な發想。馮兆張『馮氏錦囊祕錄』全八書・五〇卷(一六九四自序、一七〇二初版)中の『雜證痘疹藥性主治合參』一二卷を主に、『景岳全書』『顧生微論』『醫學入門』『雷公炮炙論』『本草綱目』も参照するが、博物記載は少ない。具體的成立年は未詳。

## R.1087 卷一二・一三

刊本一册五七十五六葉、ベトナム六鍼眼裝。澁引き焦げ茶中手表紙、書高二五・八×幅一五・二cm。帙なし。外題に「嶺南本草」、書根・天邊に「海上嶺南本草／上卷與下卷」を縦書き墨書。卷一二の書頭に序・目録なく、「藥品南名氣味正治歌括 附製造」とのみ



題す。以下の原草部（六二種）は貫衆・黃精・柴胡…の順で、漢名・南名（字喃）・氣味・毒・主治・加工法・一名を一部小字雙行の漢文二〜三行で記す。原草部以下は同様に、藤草一七、水草六、穀一九、菜四六、菓四八、木四二、蟲三二、鱗八、魚三五、甲六、介二三、禽三九、水鳥一二、六畜二六、野獸三六、水一〇、土一四、金一一、石七、鹵四、人六を収める。末尾の第五七葉には人糞・童小便・乳汁があり、「嶺南本草上卷終」と記す。版心の魚尾間に「嶺南本草上 葉次」を刻す。次に目録なく、「新刊海上懶翁全帙卷之十三」と題し、以下は黃柏・黃精・黃力・蒲黃・黃蠟・黃樓・白蘇・白力…の順で、「詩曰」に續けて漢名・南名（字喃）氣味・主治・加工・七情ほかを三〜四行の漢喃文で記す。記載は藥名中の色で黃・白・赤・紫・紅・黑・青・烏の順、次に藥名中にある花・果・仁・根・木・皮・子・葉・藤・草・香（他に香氣あるもの）・石（他に砂・土など）・山・天・姜の順、次に穀・金銀・獸・蟲・屎尿・菜・瓜・液體・蒂・枳・分類不詳物の順に記す。末尾の第五三葉は寄生・蕪荑の順で、「本草下卷終」以下に醃金者名四名を列記。第五四〜五六葉は版心に「本草拾遺下」とあり、漢藥の南名を列記する。料紙は中葉ゾー紙で、軽く黃變する。有界、四周雙邊、版心白口・雙内向黑魚尾、魚尾間に「嶺南本草下（本草拾遺下）通卷葉次」を刻す。

當卷一二・一三「嶺南本草上・下」二卷は藥性を主とする簡便な本草書。卷一二は（傳）慧靖原著『（新刊）南藥神效十科應治』（一七六一初版？）の首卷にほぼ基づき、一部に削補がある。卷一三末

尾の「本草拾遺下」も『南藥神效』首卷末尾の「本草拾遺」に基づくが、相當に増補している。兩卷に懶翁の小引がないことからしても、懶翁の著とは考えられない。卷一三の藥名共通文字による分類配列は中國ほかに見えない獨特な發想で、漢喃研究所 ZIN 31『南藥指名傳』中の「新撰各味主藥性藥炮製忌及新陳性詩等五色門」に同類の配列が見える。

#### R1088 卷一四

刊本一冊八九葉、ベトナム六鍼眼裝。濫引き焦げ茶中手表紙、書高二五・八×幅一五・〇cm。帙なし。外題なく、書根・天邊に「外感通治」を縦書き墨書。卷一四の書頭「新鐫海上醫宗（缺筆）心領全帙卷之十四」と題す。以下に御醫正・蔡默齋の無記年「小引序」一葉強あつて、景興癸亥（一七四三）年に筆峰道人らに會つた時、座中の一人に懶翁の「外感通治」一卷を示され、醫家が勝覽すべき書なので數言を序す、と記す。目録二葉あつて、上篇に心得論・論我嶺南無傷寒症く論我嶺南麻黃桂枝湯絶不可用く辨一症之中有虛有實、中篇に辨可汗症・辨不可汗症く辨汗多本是…、下篇に論諸虛症補法・論諸虛症用方く五臟苦欲補寫論を記す。内題に「外感通治上篇／海上懶翁黎氏纂輯 後學唐鄺武春軒奉較」と記す。以下は目録通りで、外感に關する醫論と治法が第三四葉までの上篇に二五論、第五三葉までの中篇に八論、書末第八九葉までの下篇に二二論あり。見出し方名の多くを陰刻する。書末に「外感通治卷終」と記し、末尾に醃金者四名を列記。料紙は中葉ゾー紙で、軽く黃變す

る。有界、四周雙邊、版心白口・雙内向黒魚尾、版心魚尾間に「外感通治 上（中・下）篇 葉次」を刻す。全書に朱點あり、蟲損・破損なし。

當卷一四「外感通治」上中下篇は、傷寒を主とした外感病の論と治法・醫案の書で、中國とは異なるベトナム化した治療を論じる。「心得論」では『醫學入門』を五年間學び、傷寒を研究したという。「論我嶺南無傷寒症：」ではベトナムに傷寒がなく、冬に感寒、春夏秋に感冒時氣があるのみのいい、ベトナムで強く發汗すると陰虛となるため「論我嶺南麻黃桂枝湯絶不可用」という。また隨處で外感症での補法、とくに補陰を強調し、ベトナムの氣候に對應した治療をいう。ただし懶翁は『傷寒論』自體を明らかにしていない。當卷には懶翁の自序がなく成立年未詳。なお蔡默齋「小引序」に記す景興癸亥（一七四三）年は他の懶翁の著述年より早すぎ、何かの錯誤があるように思える。「小引序」の記述からすると懶翁の没後らしく、あるいは嘉隆癸亥（一八〇三）か。

R.1089 卷一七・一八（卷一五・一六・一九～二四を缺き、未刊か）刊本一册五八十五九葉、ベトナム六鍼眼裝。澁引き焦げ茶中手表紙、書高二四・八×幅一四・五cm。帙なし。外題なく、書根・天邊に「海上卷／十七十八／百病機要」を縦書き墨書。序なく、書頭に「新鐫海上醫宗（缺筆）心領全帙卷之十七／百病機要丙卷 目次」と題し、積聚・蟲病・痔瘻・霍亂・泄瀉・痢疾・脱肛・燥結の篇名を記す。續く本文は積聚條に審機・別症・虛實・吉凶・治法・用

藥・方劑加減を記し、目錄通りの篇名が卷末の第五八葉まである。次卷は「新鐫海上醫宗（缺筆）心領全帙百病機要丁卷之十八／海上懶翁黎氏纂輯 後學唐鄆武春軒奉較」と題す。續けて目次あり、關格・噎塞痞滿悶・呃逆・嘔吐・噯氣・吞酸吐酸・噎膈翻胃・血病の篇名。續く本文は關格條に審機・別症・虛實・吉凶・治法・處方・用藥を記し、目錄通りの篇名があり、卷末は第五九葉まで。見出しと方名の多くを線で圍み、陰刻にはしない。書末に「百病機要丁卷終」と記し、末尾に釀金者五名を列記。料紙は中葉ゾー紙で、輕く黃變する。有界、四周雙邊、版心白口・雙内向黒魚尾、版心魚尾間に「機要丙（丁）卷 篇名 葉次」を刻す。全書に朱點・朱引きあり、蟲損・破損なし。

當卷一七・一八「百病機要丙卷・丁卷」は消化器疾患の病門別に記す論と治法の書。成立年は未詳。なお當書は卷一五・一六の「百病機要甲卷・乙卷」を缺く。本書首卷の總目錄は卷一五に「百病機要集甲」、卷一六に「百病機要集乙」を記すのみで、當二卷に對する「一七卷 百病機要集丙 自積聚／至燥結 該八目」「一八卷 百病機要集丁 自關格／至血病 該八目」の如き細目が記されない。調査した他の全現存本および現存版本も均しく卷一五・一六を缺くので、未刊の可能性が高い。また總目錄に記す本書卷一九～二四「百病機要戊～癸」も同じ情況で缺卷しており、未刊だったらしい。これら缺卷のゆえ、首卷にある唐鄆武春軒の原引末尾に、「目今參訂、攷究編寫、成書已得十之七八。：其所未備者、請質諸君子」と記されるのだろう。このため「百病機要」が本來幾卷で如何

なる内容だったかは分からない。ただし首巻凡例の提要に「百病機要集は諸家の各病門を選取し、別けて審機・別症・虚實・吉凶・治法・處方・用藥となし、以て一覽に便す」とあり、卷一七・一八の記載と一致するので、各科病門別の論と治法の書だったことは間違いない。

## R.1090 卷二五

刊本一冊四十六附存一三葉、ベトナム六鍼眼装。澁引き焦げ茶中手表紙、書高二五・四×幅一五・一cm。帙なし。外題なく、書根・天邊に「醫中關鍵」を縦書き墨書。書頭に「新鐫海上醫宗（缺筆）心領全帙卷之二十五」と題し、景興四二年（一七八〇）の海上懶翁「小引」一葉あつて、臨床二〇年という。次に目次一葉半あつて、中風・中寒・中暑・中濕・厥症・跌撲損傷・癘風を記す。巻頭に「醫中關鍵卷／海上懶翁黎氏纂輯／後學唐郡武春軒奉較」と題し、以下は中風から目録通りの病門あつて、各々について論・治法的重要點を簡潔に第四六葉まで記す。末尾に「醫中關鍵卷終／光義／敬書」あつて、以下に醃金者一〇名を列記。以上は書頭の「小引」から通し葉次。次に別葉次で「附四海論」と題し、五臟虚實論治・臟病皆補腎論・六腑所主見症虚實治法・五臟熱病用藥大概・論治并方目（馮先師）・危候死症が第一三葉まであり、以下を缺く。料紙は中葉ゾー紙で、軽く黄變する。有界、四周雙邊、版心白口・雙内向黒魚尾、版心魚尾間に「醫中關鍵卷 篇名 葉次」を刻す。刻字は明朝體に似る。全書に朱點あり、蟲損・破損なし。

當卷二四「醫中關鍵」は各病治療の要點・奥義で、一七八〇年の成立。「鍵」を「健」とも記すのは避諱か。附録の「四海論」は當卷と關聯が少なく、何かの混亂が想像される。

## R.1091 卷二六

刊本一冊六三葉、ベトナム六鍼眼装。澁引き焦げ茶中手表紙、書高二五・四×幅一五・一cm。帙なし。外題なく、書根・天邊に「海上婦科／二十六／前卷」を縦書き墨書。書頭に「新鐫海上醫宗（缺筆）心領全帙卷之二十六」と題し、無記年の黎氏別號懶翁「小引」一葉あり。次に「皇朝嗣德萬萬年歲次庚辰三十三年（一八八〇）正月吉日刻／板留同人寺」の刊記あり。次に凡例半葉あり、一に『錦囊』全篇に基づいて審機・別症・虚實・治法・處方・用藥増損を記し、『景岳』『醫學入門』『濟陰綱目』『婦人良方』『簡易』『土材』『薛氏醫案』『古今醫鑑』『準繩』も参照したと記す。また前卷目次に月經總論・經病條・崩漏條・受胎總論・驗胎脈、後卷目次に胎前條・胎前雜症條・玉門不閉・乳疽までを第四六葉まで記す。第五葉巻頭に「婦道燦然集前卷／海上懶翁黎氏纂輯／後學唐郡武春軒奉較」と題し、以下は月經總論から目録と凡例通りの諸篇あり。第六三葉の書末に「嗣德三十三年九月十五日刊」の刊記あり、以下に醃金者六名を記す。料紙は中葉ゾー紙で、軽く黄變する。有界、四周雙邊、版心白口・雙内向黒魚尾、版心魚尾間に「婦道卷 篇名 葉次」を刻す。刻字は明朝體に似る。全書に朱點あり、蟲損・破損なし。

## R.1092 卷二七

刊本一冊七五葉、ベトナム六鍼眼装。澁引き焦げ茶中手表紙、書高二・四×幅一五・一cm。帙なし。外題なく、書根・天邊に「海上婦科／二十七／後卷」を縦書き墨書。書頭に「新鐫海上醫宗（缺筆）心領全帙卷之二十七／婦道燦然集後卷／目次」一葉半あつて、胎前條・胎前雜症條（惡阻／胎孕變常紀）・臨產條・產後條・產後雜症條（血暈／玉門不閉・乳疽）までを記す。ウラに「皇朝嗣德萬年歲次庚辰三十三年（一八八〇）正月吉日刻／板留同人寺」の刊記あり。卷頭に「婦道燦然集後卷／海上懶翁黎氏纂輯／後學唐郡武春軒奉較」と題し、以下は胎前條から目録通りに諸篇あり、卷二六と同様に記す。第七五葉の書末に釀金者多數を記し、末尾に「婦道後卷終 靈山監院苾芻戒法名清義奉書」と記す。料紙は中葉ゾー紙で、軽く黄變する。有界、四周雙邊、版心白口・雙内向黒魚尾、版心魚尾間に「婦道後卷 篇名 葉次」を刻す。刻字は明朝體に似る。全書に朱點あり、蟲損・破損なし。

當卷二六・二七の「婦道燦然集前後卷」二冊は婦人諸病および産前産後の論治書で、成立年未詳、一八八〇年正月から九月の所刊。引用漢籍では婦人科の專書より、『錦囊祕錄』『景岳全書』『醫學入門』を重視する點が注目される。

## R.1093 卷二八

刊本一冊五八葉、ベトナム六鍼眼装。澁引き焦げ茶中手表紙、書高二・四×幅一五・一cm。帙なし。外題なく、書根・天邊に「海

上婦科／二十八／良模」を縦書き墨書。書頭に寫刻體で無記年の黎氏別號海上懶翁「新海上醫宗（缺筆）心領全帙卷之二十八／坐草良模卷 原引」一葉あり、資生・胚胎の重要性を述べ、臨産の危急のために門目を分かりやすく配列したという。次に目次一葉に産訓・産難・治要／産家備用方・附算胎法あつて、末尾に「皇朝嗣德萬萬歲之三十三年庚辰（一八八〇）正月吉日新刻／板留北寧省慈山府武江縣大壯社同人寺」の刊記あり。卷頭に「坐草良模卷／海上懶翁黎氏纂輯／後學唐郡武春軒奉較」と題す。以下は産訓から目録通りに諸篇あり、篇名を陰刻する。第五八葉の書末に釀金者なく、末尾に「坐草良模卷畢／清義／敬書」と記す。料紙は中葉ゾー紙で、軽く黄變する。有界、四周雙（單）邊、版心白口・雙内向黒魚尾、版心魚尾間に「良模卷 篇名 葉次」を刻す。刻字は明朝體に似る。全書に朱點あり、蟲損・破損なし。

當卷二八は産科の方論專書。一八八〇年刊、成立年は未詳。

## R.1094～1097 卷二九～三二

各卷一冊は「幼幼須知」の金卷・木卷・土卷・水卷だが、時間の都合で調査を割愛。

## R.1098 卷三三

刊本一冊七九葉、ベトナム六鍼眼装。澁引き焦げ茶中手表紙、書高二・六×幅一五・二cm。帙なし。外題ほがなく、書根・天邊に「海上幼集／火卷／三十三」を縦書き墨書。書頭に「新鐫海上醫宗

（缺筆）心領全帙卷之三十三」と題し、火巻目次半葉あつて總論・辨源論化機論・榮養心肝方・調補脾肺方・兒科列方の一〇項目を記す。ウラに序の短文あつて「樂生篇曰、天厚於人…製篇命額、聊以形容／黎氏別號懶翁撰／板留在武江縣大壯社同人寺」を記す。巻頭に「幼幼須知火巻／海上懶翁黎氏纂輯／後學唐郡武春軒奉較」と題し、以下本文は目錄同様に總論から始まる。前半は小兒の醫論、後半は治方の主治と各病症の増損を第一九葉オモテまで記す。第一九葉ウラに「以上四方増損用藥、皆余之經驗…」と書き出し、第二〇葉ウラまで小兒治療の要点を述べ、末尾に「樂生篇終」と記す。以下は兒科諸方で二三七方の方名・藥味・用量・調劑法を列記し、第七九葉の「二百三七鎮心丸」まで。末尾に「火巻終」を記し、巻末に醃金（梓木も）者五名あり。跋・識語なし。漢文書で、書中の方名には番號をふる。料紙は中葉ゾー紙で、軽く黄變する。有界、四周雙邊、版心白口・雙内向黒魚尾、魚尾間に「火巻 篇名 通卷 葉次」を刻す。每半葉匡郭、縦二一・八×横一二・五cm、八行・行二三字、小字雙行・行二三字。一九世紀刊本で、字様は明正統嘉靖版に似る。稍後印。四周雙邊に「THU VIEN / QUOC GIA」（國家圖書館）の藏印記。一部に朱點あり。蟲損・破損なし。

卷二九～三三の「幼幼須知」五卷は小兒科の論と治法の書で、五行で分卷する。これは卷一〇・一一の「藥品彙要」で收載藥を五行で分類するのと同じで、懶翁の獨特な發想を示す。卷二九にある懶翁「小引」に記年なく成立は不詳だが、多くは一八八〇年の刊記がある。なお卷三三の第二〇葉までを懶翁は「樂生篇」と呼び、これ

を首卷凡例では「自家心法爲樂生篇」と記す。ベトナムの古醫籍名や篇名には「樂生」がいくつかあり、小兒のベトナム表現らしい。

#### R1099 卷三四・三五

刊本一冊五一＋四七葉、ベトナム六鍼眼裝。澁引き焦げ茶中手表紙、書高二五・五×幅一五・〇cm。帙なし。外題ほかなく、書根・天邊に「覺痘甲乙卷」を縦書き墨書。書頭に「新鐫海上醫宗（缺筆）心領全帙卷之三十四」と題す。以下は第三葉オモテまで懶翁「夢中覺痘卷 小引」あり、依安縣阮舍社に住んでいた戊寅年（一七五八）に五歳の息子が痘瘡になり、二人の醫者にかかったが死に、のち醫を一五年學んで本書を著したと記す。また第五葉オモテまで凡例あり、本書一〇卷は『錦囊祕錄』を提綱、『景岳全書』を顯實、また『救偏瑣言』『保赤全書』『萬氏家藏』『痘疹心法』『痘疹金鏡錄』『痘疹玉髓』『壽世保元』『醫學入門』も参照と記す。さらに本書を十干で甲～癸卷に配し、各卷の提要を各二行で記す。次に甲巻目次あつて、總論・看痘・面部圖・驗凶症・驗死症・日數歌までを記す。第七葉巻頭に「夢中覺痘甲卷／海上懶翁纂輯／後學唐郡武春軒奉較」と題す。以下本文は總論から始まり、陰刻の項目が目錄同様にあつて、第五一葉の「甲巻終 靈山監院苾芻清義奉書」まで。巻末に醃金者九名あり。跋・識語なし。次に「新鐫海上醫宗（缺筆）心領全帙卷之三十五／夢中覺痘乙卷／目次」あつて、脈法・治法總論・諸忌名目・避穢諸法を記す。巻頭に「夢中覺痘乙卷／海上懶翁纂輯／後學唐郡武春軒奉較」と題す。以下本文は脈法から始まり、

陰刻で項目を目録同様に記す。書末は第四七葉で、末尾に「乙巻終」とある。漢文書。料紙は中葉ゾー紙で、軽く黄變する。有界、四周雙邊、版心白口・雙内向黑魚尾、魚尾間に「甲（乙）卷 篇名通卷葉次」を刻す。每半葉匡郭、縦二〇・二×横二二・八cm、八行・行二一字、小字雙行・行二一字。一九世紀刊本で、字様は明正統・嘉靖版に似る。稍後印。四周雙邊に「THU VIEN / QUOC GIA」（國家圖書館）の藏印記。一部に朱點あり。蟲損・破損なし。

本書「夢中覺痘」全一〇卷（『醫宗心領』卷三四～四三）は痘瘡の專書で、自序から一七七三年前後の成立と分かる。他機關の別本によれば卷三六丙卷目次末行に嗣德三四年（一八八一）の刊記がある。

國家圖書館の當本では『醫宗心領』卷三六～六〇を缺き、卷六一から存する。ついでに缺卷部分の提要を首卷凡例から以下に抜粋しておく。卷四四「麻疹準繩集。諸家の方法を撰じ、己の經驗・訓誠を附す」。卷四五「心得神方集。先師馮氏『錦囊』中の新製祕方を奉じ、方意を註解して學ぶ者をして奥妙を深明せしむ」。卷四六「倣新方集。余、危症の變幻百出に方なく法すべきものと、その病ありてその藥なきものに臨む毎に曲盡精思せざるを得ず、別に方法を立て、以て緩急に應酬す。幸い病の去ること甚速を得ば、仍りてこれを存し、以て未だ備わざるに備う」。卷四七～四九「百家珍藏集。余、外祖公傳家祕方を奉じ、また識友を遍求して日増月積したるを門類に別分し、毎に醫の手を束ぬる處に屢ば奇效を建つこと補わざるをなさず」。卷五〇～五七「行簡珍需集。本草の諸單方、およそ

南北の藥品に便あり、通用簡易すべきものを略取し、以て輕便に應酬す。八卦の名目を以て列し、以て查究に便す。最愛すべくは眼前の草木、皆く通ず」。卷五八～六〇（卷五八のみ存し、刊行は當卷のみか）「醫方海會集。諸家の方書を取り、湯丸の重なるは削り、缺くは増し、日の一巻をなし、條目を照らし分け、以て一覽に備う」。

#### R1110 卷六一・六二

刊本一冊五二十四五葉、ベトナム六鍼眼裝。澁引き焦げ茶中手表紙、書高二五・五×幅一四・五cm。帙なし。外題ほかなく、書根・天邊に「陽案陰案」を縦書き墨書。書頭に「新鐫海上醫宗（缺筆）心領陽案全帙卷之六十一／海上懶翁黎氏纂輯 後學唐郡武春軒奉較」と題す。無記年の懶翁小引一葉あつて、自分のもと儒家だったのが兵亂のため母籍の香山に逃れ、雲水との縁で醫に入り、僅かに效驗あつた醫案を一身一家の龜卜のために集めたという。次に目次半葉あつて、消渴案・陰虛頭痛案・妊娠霍亂案・脇痛脹悶案・關格案・產難案までを記す。本文頭に題なく、陰刻の項目が目次同様に消渴案から始まり、第五二葉に「醫陽案卷終（陰刻）」を記す。卷末に釀金者名あり。跋・識語なし。次に「新鐫海上醫宗（缺筆）心領全帙陰案卷之六十二／海上懶翁黎氏纂輯 後學唐郡武春軒奉較」と題す。無記年の懶翁小引一葉半あつて、儒から醫に轉じて十餘年といい、醫に志す後の君子のために活人の「陽案」以外に不治の「陰案」一巻を述べ、「醫病、不醫命」説への反論とするという。目

次半葉に陰亡陽竭案・傷暑單熱亡陰案・氣血俱虛痘案・虛癆案を記す。本文に題なく、陰刻の項目が目次同様にある。書末第四五葉に醃金者五名あり、末尾に「醫陰案卷終 山陽太保院弟子奉書」と記す。漢文の書。料紙は中葉ゾー紙で、軽く黄變する。有界、四周雙邊、版心白口・雙内向黒魚尾、魚尾間に「陽（陰）案卷 篇名 通卷葉次」を刻す。每半葉匡郭、縦二〇・〇×横一二・七cm、八行・行二一字、小字雙行・行二一字。一九世紀刊本で、稍後印。字様は明正統版に似る。四周雙邊で「THU VIEN / QUOC GIA」（國家圖書館）の藏印記。一部に朱點あり。蟲損・破損なし。

當卷六一・六二は懶翁自身の效驗と不治の醫案集で、雙方とも病症・診斷・治法・變遷ほかを詳細に記す。自序からすると一七七〇年頃の成立で、刊年是不詳。當本首卷の總目錄は兩者を卷五九と六〇と記すが、修刻後印本の首卷目錄では卷六一・六二に作る。

### R.1111 卷六三

刊本一冊四七葉、ベトナム六鍼眼裝。黄色中手表紙、書高二七・〇×幅一五・六cm。帙なし。外題ほかなく、書根・天邊に「懶翁格言上下／參朮之／參拾陸」を縦書き墨書。書頭に「新鐫海上醫宗（缺筆）珠玉格言卷六十三」と題する。以下に無記年の懶翁小引一葉あつて、この上下二卷を読んだ客人が「珠玉格言篇」と題したと記す。目次なく、本文頭に「珠玉格言上篇 珠玉格言下篇」と題す。上篇は命門の火と六味丸・八味丸の説から始まり、陰陽虛實・藏象・藥性・四診・治法・病理・醫方・調劑・禁忌などに對する懶

翁の格言と論を第二〇葉オモテまで記す。第二〇葉ウラに「珠玉格言下篇」と題し、以下は直接本文で上篇同様に醫藥（人乳・鹿角・人參の藥論、製藥法など）の格言と論が第四三葉まである。第四四葉に「附錄傳心秘旨補遺」と題し、書末四七葉まで吐瀉の治法と加減を記す。卷末に醃金者名なし。跋・識語なし。漢文の書。料紙は薄葉ゾー紙で、軽く黄變する。有界、四周雙邊、版心白口・雙内向黒魚尾、魚尾間に「珠玉上篇（下） 通卷葉次」を刻す。每半葉匡郭、縦一九・九×横一二・七cm、八行・行二一字、小字雙行・行二一字。一九世紀刊本で、字様は嘉靖萬曆間の坊刻版に似る。先印で文字鮮明。四周雙邊で「THU VIEN / QUOC GIA」（國家圖書館）と不詳の藏印記。朱點ほかなし。やや蟲損あり、破損なし。

當卷六三は懶翁自身の經驗を踏まえた醫療全般の精髓を集約した書。附錄の補遺からしても、「傳心秘旨」が本來の書名だったらしい。第二七葉の「治傷寒以救陰爲主。寒能泣血、血虛而久熱」、「治中風以壯水爲先。風先入肝、肝虛則筋急」の格言は、傷寒・中風にも補陰を強調していて獨特。これは吳有性『溫疫論』の發展といえ、何かの間接的影響があるかもしれない。當本首卷の總目錄は醫陰案・醫陽案の後の卷六一（修刻後印本では六三に作る）に「傳心秘旨」を配し、首卷凡例では「傳心秘旨集。凡書中之義理精髓、辯論詳悉庶得、爲擇術之精焉」と記す。また修刻後印本の首卷總目錄では尾卷の上方に「卷六四 問策集」を補刻するが、現存する本書に當卷は見あたらず、未刊に終わつたらしい。ベトナムで「問策」は「策問」とも書き、設問に答える形式の小論文なので、問は文、

策は作に通じるかもしれない。

# R1112 卷之尾

刊本一冊九七葉、ベトナム四鍼眼装。黄色中手表紙、書高二七・〇×幅一五・五cm。帙なし。外題ほがなく、書根・天邊に「懶翁記事／被召至放歸／參渠之參渠」を縦書き墨書。書頭に「新鐫海上醫宗（缺筆）心領全帙上京記事卷之尾／海上懶翁黎氏纂輯 後學唐鄒武春軒奉較」と題す。以下に景興甲辰（四五）年（一七八四）の蕉山居士號小竹齋序一葉半あつて、友人から懶翁心領一帙を授けられ、その末尾に學醫二〇年の懶翁が救命で壬寅年（景興四三、一七八二）に護衛兵つきで上京して王に湯藥を奉じ、諸官と詩文を交わした「上京記事」があり、これに序す、と記す。以下は一七八二年一月一二日から始まる懶翁の日記風記事で、本名は黎有卓、母籍の香山縣情艷社に居住と記す。あとは上京途中、王・皇后ほか諸人の治療、詩文の交換、翌年一月二日に歸郷するまでの詳細を、會話まで記録した記事が続く。文中に醫道三〇年を集成した心領一帙を私傳せず、上京を機會に世に公開したいと記す。末尾の第九七葉オモチに「皇朝景興四十四年癸卯（一七八三）仲冬記（上京記事終）」と記し、ウラは白紙。卷末に釀金者名なし。跋・識語なし。大部分は漢文の書。料紙は薄葉ゾー紙で、軽く黄變する。有界、四周雙邊、版心白口・雙内向黒魚尾、魚尾間に「記事尾卷 通卷葉次」を刻す。每半葉匡郭、縦二〇・一×横一二・七cm、八行・行二一字、小字雙行・行二一字。一九世紀刊本で、字様は序文のみ明朝體で、本

文は明の正統・嘉靖版に似る。先印で文字鮮明。四周雙邊で「THU VIEN / QUOC GIA」（國家圖書館）と不詳の藏印記。朱點ほかなし。やや蟲損と破損あり。

當卷之尾は懶翁が王（顯宗）の治療に召され、昇龍（ハノイ）に上京し、歸郷するまでの約二年間を日記に基づき記録した書。成立は序の一七八四年、刊年は未詳。この時まで集成していた『醫宗心領』も携行しているので、上京を機會に本書の傳寫本が作成され、出版前から一部に流布したと推測される。

# R1113～1173（新鐫海上懶翁）醫宗心領全帙

多數のためR1112のみ調査。刊本一冊七九葉、ベトナム包背原眼装。澁引き焦げ茶中手表紙、書高二四・四×幅一四・五cm。帙なし。外題・背記ないが、天邊・書根に「海上卷／三十三／幼幼須知」を縦書き墨書。目錄半葉に「新鐫海上醫宗心領全帙卷之三十三／火卷目次」と題し、總論・辨原論・調補脾肺方・兒科列方あり。裏に「樂生篇曰、天厚於人……以形容／黎氏別號懶翁撰」の類序あり、末尾に「板留在武江縣大壯社同人寺」。卷首に「幼幼須知火卷／海上懶翁黎氏纂集／後學唐鄒武春軒奉較」と題し、以下本文。第二〇葉末尾に「樂生篇終」、第二二葉に「兒科諸方 該二百三十七方」と記し、各方は方名上に通し番號あり。卷末に釀金者五名と金額を列記し、内二名は「梓木一株」も寄附する。漢文の書。跋・識語なし。料紙は薄葉ゾー紙で、全體にやや黄變する。有界、四周雙邊、版心白口・雙内向黒魚尾、魚尾間に「火卷 篇名 葉次」を刻



す。每半葉匡郭、縦二一・七×横一二・五cm、八行・行二三字、小字雙行・行字。一九世紀の刊本。四周雙邊で「THU VIEN / QUOC GIA」(國家圖書館)の藏印記。全書に朱點・朱引き、書き入れ等なし。蟲損なく、破損。

R.1148は『醫宗心領』小兒科部分「幼幼須知」末尾の卷三三。

#### R.1704 (〔海上懶翁〕心傳秘決新書)

「海上懶翁卷之壹心傳秘決新書／珠玉格言篇上」と題する書末を缺く寫本で、本書刊本卷六三に該当する。時間の都合で他事項の調査を割愛。

#### R.1556 (慧靖著、洪義覺斯醫書下)

刊本一冊二九+三二+二四葉。ベトナム四鍼眼装、絲切れ、表紙缺、書高二六・四×幅一五・五cm。帙なく、縁厚紙で表紙様に包む。外題なく、書根・頭に「南藥正本卷下」を横書き墨書。序・目錄なし。卷首に「洪義覺斯醫書卷下／洪義堂宿禰慧靖著／東開／槐衍／逸士黎德全法晟抄錄」と題し、以下本文は「十三方加減」より始まる漢喃文書。一・不換金、二・二陳湯、三・參蘇、四・四物湯、五・五苓散、六・玄武湯、七・香蘇、八・小柴胡、九・靈驗對金、一〇・十神湯、一一・烏藥順氣、一二・五積、一三・四君子湯の方論が第二九葉まで。次に無記年・無記名の「醫書慧靖重刊謹序」二葉、「傷寒格法治例目錄」一葉(祕用三十七法就註三十七槌法＋加減續命湯・黃連消毒飲)あり。卷頭に「傷寒格法治例卷之下／上古

老禪弘(缺筆)敝無擇慧靖撰集」と題し、本文は祕用三十七法就註三十七槌法から。漢喃文で明・陶華『傷寒六書』にある「殺車」「槌法」の語彙も使い、第一方は升麻發表湯(麻黃湯加減)で、第三七方の黃連消毒飲まで三三葉。末行に「傷寒三十七法并三十七槌法卷之下」を記す。次に「症治方法 屬卷下」と題し、漢喃文で求醫問答要訣・治痢要訣・治泄要訣・治孕婦胎熱似痢要訣・治轉胞要訣・產後血塊□痛要訣・崩漏要訣・吐血要訣ほかの論と治方が二四葉まで存。跋・識語なし。料紙は薄葉ゾー紙で、やや黄變。無界、四周單邊、版心白口・無魚尾、版心に「十三方(傷寒・提綱) 葉次」を刻す。每半葉匡郭、縦一八・五×横一三・〇cm、一〇行・行一六字、小字なし。四周雙邊で「THU VIEN / QUOC GIA」(國家圖書館)の藏印記。全書に朱點・朱引き、書き入れあり。蟲損なく、やや破損。

方論・傷寒治方・婦人科の書。惠靖(一二三〇～一三八五?)は陳代を代表する醫家で、本書二卷は黎朝の侍内府が慧靖の著として一七一七年に編刊。上卷に『南藥國語賦』『直解指南藥性賦』を収めるが、國家圖書館には見あたらない。當下卷の『十三方加減』は元・徐和用『加減十三方』(一四一三初版)を、『傷寒格法治例』は明・陶華『傷寒六書』(一五二二初版)中の『傷寒家祕』殺車槌法』を漢喃文にしたのが明らかで、慧靖に假託した一六～一八世紀の付加だろう。末尾にある『症治方法』はベトナム醫書の特徴といえる痢や泄から始まるので、あるいは惠靖の著に基づくか。當本は恐らく一九世紀の刊本。

## 【合抄】

## R.218 (六味加減法)

寫本一冊六五葉、後補ベトナム四鍼眼装。綠色中手新表紙、書高二八・五×幅一七・〇cm。帙・外題ほかなし。原表紙・書頭一六葉と書末を缺き、序・目録なし。内題なく、存第一葉「方用之、易増減也／六味加減法」から始まる。以下に方論あつて、第四葉ウラに「本集諸方按引卷之三」と題する無記年・無記名の序に、速效の方を集めて「新方」と名付けると記す。第五葉に「方案本集目錄」あつて、培土固中方・滋水潤燥方・保火丸・石膏散を記す。第六葉ウラより培土固中方・滋水潤燥方の方論あつて、第四三葉の石膏散まで。第四四葉に「醫海大成外感通治海上懶翁纂輯」と題し、心得論二葉半あり。第四六葉に「秘旨本集目錄」あり、珠玉格言上篇・同下篇く辨一症之中有虚有實共二十八條・辨可治病汗禁方術を記す。第四七葉に「海上懶翁心傳秘旨」と題し、珠玉格言上篇から同下篇の途中第六五葉まで存する。漢文の書。跋・識語なし。料紙は薄葉ゾー紙で、相當に黄變する。無界、無邊、無魚尾、版心に葉次を寫し、欄上に現存葉次を記入。每半葉、九行・行約二六字、小字雙行。四周雙邊で「THU VIEN / QUOC GIA」(國家圖書館)の藏印記。全書に朱點・朱引き、書き入れ等あり。蟲損なく、版心切れと破損は甚大。

『本集諸方按』卷三新方および海上懶翁『醫宗心領』卷六三珠玉

格言からの抜抄で、方論と醫論の書。一九世紀の筆寫。

## R.221 (南天藥性賦)

寫本一冊七八頁、後補ベトナム四鍼眼装。澁引き焦げ茶厚手表紙、書高二六・七×幅一五・五cm。帙なく、綠色厚紙で表紙様に包む。外題・背書なし。序・目録なし。卷首に内題なく「南天藥性賦」と題する藥性賦六葉あり、漢文に小字の字喃で注記。以下本文は「南天藥性 卯堂新撰近用」と題する漢文の七葉で、藥名と藥性を大書、小字で各家藥論・應用を記す。柴胡・南星・前胡・香附・紫蘇・葛根・薄荷(ママ)・荊芥・藿香・白芷の順で、扁豆・葶藶・薏苡・車前子まで。注記には東垣・仲景・丹溪・日花(華)・本草・易老・唐本を引くので、参照は『本草綱目』ないし『證類本草』と『東垣十書』の可能性あり。さらに「藥性歌括 共貳百四十味」と題し、人參・黃耆・白朮・茯苓・甘草・當歸・川芎の順で、各藥一行に氣味と一二字の主治を漢文一六葉に記す。加工等は小字で注記。末尾は天靈蓋・人乳・童便・生薑まで。次に「增補南天藥性」一葉あり、漢文で土茯苓・萆薢・松節・雲母を記す。次いで「家傳治痘演音」一六葉あつて、痘疹治療を漢喃文で一論く七論まで記す。跋・識語なし。料紙は薄葉ゾー紙で多く版心切れし、全體に黄變する。無界、無邊、無魚尾。每半葉、約八行・行約二〇字、小字雙行。四周雙邊で「THU VIEN / QUOC GIA」(國家圖書館)の藏印記。全書に朱點・朱引きあり。蟲損・破損なし。

『南天藥性』『藥性歌括』『家傳治痘演音』からなる合寫本。一九

世紀の筆寫か。

# R.474 (脈法)

寫本一冊七七葉、後補ベトナム四鍼眼裝。澁引き焦げ茶中手表紙、書高二八・三×幅一七・二cm。帙なし。外題・背書なし。書頭に亂葉あり、これを復元して記す。オモチ部分を缺く半葉の第四葉に「新□(撰?)聚寶書卷序」と題し、「醫家德光府(今の義安省)眞福縣勇決社祖科兼良醫歸依三寶嚴師(謹□/集撰)…」第三葉に「民生而知之…亦助國」、第二葉に「二囊之處…故曰聚寶脈書…補益云耳」の序。そのウラに「脈法目錄 阮□師謹撰錄載下」と題し、「左手仰掌圖・右手仰掌圖・腎臟主病歌・肺臟脈歌」、第一葉に「肺臟主病歌・脾臟脈歌・增補訣年月病死歌・增補訣日脈病死歌」の目錄、裏に左手仰掌圖あり。手掌の四圖のうち二圖は潔古脈訣より引用・補入。七表八裏の脈圖(運氣圖様)は多く叔和脈訣からで、第一六葉まで圖説あり。これら圖は様式化されるので、刊本に基づく筆寫と推定できる。第一七葉からの本文は漢喃文で七診法訣脈歌・九候應部脈歌訣とあり、第五四葉オモチまで。同ウラより脈辨・新刪國語脈訣・重訂保產經驗國語・炮製國語歌があり、第七七葉の書末には病症と治法あり。跋・識語なし。料紙は薄葉ゾー紙で、全體に黃變し、多く版心切れ。無界、無邊、無魚尾。上邊に葉次を鉛筆書き。每半葉、八行・行二五字、小字雙行。四周雙邊で「THU VIEN/QUOC GIA」(國家圖書館)の藏印記。全書に朱點・朱引き、書き入れあり。蟲損なく、やや破損。

『聚寶脈書』『脈辨』『新刪國語脈訣』『重訂保產經驗國語』『炮製國語歌』の抜抄書。訣を訳に書く。一九世紀の筆寫か。

# R.602 (加減十三方)

寫本一冊一一葉、後補ベトナム四鍼眼裝。澁引き焦げ茶中手表紙、書高二九・三×幅一六・五cm。帙・外題ほかなし。書頭を缺き、序・目錄なし。内題なく、本文は雑多な治方を漢喃文で列記する。第一〇葉に「華陀眞人瘡脈論」と題し、漢文で癰疽等の論と治方。第三六葉に「銀海精微卷 五輪八廓總論」と題し、漢文で眼科の治方。第四六葉に「家傳神仙經驗妙藥神機」、第五二葉ウラに「家傳經驗目痛神機」、第五九葉ウラに「以上諸方藥家傳經驗妙藥神機秘訣完卷共□張」と記す。第六〇葉に叔和脈訣、第六四葉に臟腑脈訣、第六五葉ウラに死生脈詩、第七五葉に海上懶翁心傳秘旨を記し、第八二葉まで醫書。第八三葉に「前赤壁賦 南年壬戌…」と題し、第八四葉ウラまで。次に送貧祭文、第一〇二葉に「誠齋黎先生六句雙壽門生賀帳文」あつて書末第一一葉まで漢文で記す。跋・識語なし。料紙は中葉ゾー紙で、僅かに黃變する。無界、無邊、無魚尾。下欄に葉次を記入。每半葉、八行・行約二四字、小字雙行。四周雙邊で「THU VIEN/QUOC GIA」(國家圖書館)の藏印記。全書に書き入れ等なし。蟲損・破損なし。

『銀海精微』『家傳經驗妙藥神機秘訣』『脈訣書』、および非醫學の「前赤壁賦」「誠齋黎先生六句雙壽門生賀帳文」など雑多な抜抄からなる合寫本で、「加減十三方」の書名は不適切。二〇世紀の筆寫だ

ろう。

# R.1199 (藥性賦)

寫本一冊一三五葉、後補ベトナム四鍼眼裝。澁引き焦げ茶中手表紙、書高二八・四×幅一六・二cm。帙なし。外題・背書なし。序・目録なし。書頭に「藥性賦」と題す。以下本文は「醫道甚大、藥性極靈、辨寒溫平熱之性、察草木土石之形…」と記し、黃耆・人參・白朮・赤芍・茯苓・地黃…の順で、氣味と六字の藥性を漢文で記す。末尾は…蘇木・藿香・神曲(麴)・青蒿・淡竹で、「以上藥性之敷陳、妙在學人之熟讀、定君臣佐使…」を記す。次に「直解指南藥賦」と題し、「天書粵(越)定南邦、土產有殊北國」と述べて治法ごとの藥味を列記する。次に「澤園門傳集要書 十三篇／上七篇 羅浚佐領官先生著／下六編 澤園先生續 先生春澤社人」と題し、吐瀉門第一から癰疽門第十三までの論治を漢喃文で記す。次に別筆で「醫學目錄／北寧太醫院阮三／所撰」と題し、上下二段に分けて病門別の論と治方を中風部く婦人部までと附録を漢喃文で記す。次に「諸病主藥」と題し、症候別藥味を二段に列記。また臟腑別の補寫溫涼藥、無關係の醫方を記す。次に「增補八陣新方詩歌輯要」と題し、補陣く因陣まで處方の主治・藥味の歌訣を記し、『景岳全書』の影響あり。以下に妊娠禁服・五臟虛實補寫・觀形察色・聽聲審音・脈訣ほかの詩訣、藏象・人身賦・用藥賦などを漢喃文・漢文で記す。跋・識語なし。料紙は薄葉ゾー紙で、一部黃變する。無界、無邊、無魚尾、下邊に通し葉次を鉛筆書き。每半葉、八行・

行約二五字、小字雙行。四周雙邊で「THU VIEN / QUOC GIA」(國家圖書館)の藏印記。全書に朱點・朱引き、書き入れあり。蟲損なく、僅かに破損。

『藥性賦』、慧靖『直解指南藥賦』、羅浚佐・澤園先生『澤園門傳集要書』、阮三『醫學目錄』、『增補八陣新方詩歌輯要』ほかの抜抄からなる合寫本。筆寫は比較的丁寧。一九世紀の筆寫か。

# R.1679 (藥性賦)

寫本一冊六四葉、後補ベトナム四鍼眼裝。表紙を脱落し、綠色厚紙で表紙様に包む。書高二八・五×幅一六・〇cm。帙なし。外題・背書、序・目録なし。卷首に「藥性賦 略述主治大概／寶亭居士堅如甫撰」と題す。以下本文は「百般草木、萬種禽獸、陰陽之氣有別、上下之品不同、其味…」と漢文で記し、白朮・人參・茯苓・遠志・酸棗の順で主治を數文字で述べ、第一〇葉の伏翼・壁賊・喜雀まで。續けて常合藥・禁忌・七情、第一二葉の末尾に「則醫家遜席、萬病回春、雖和扁名醫、不能以擅美於前代。藥性賦完 成終畢」と記す。次に「經穴撮要略編 按醫學云」と題す漢文の經脈流注が第一四葉まで。次に「血氣灌注十二經絡晝夜週而復始歌」が漢喃文で第一六葉まで。第一七葉に漢文の造射(麝)香法、第一八葉に「何氏祖傳三十六種實錄／本方專治三十六種瘋…」と題し、漢文で第三三葉まで。次に漢文の「家傳集驗良方」が第三五葉まで。以下は非醫書との合冊で、書末まで主に占術・詩論を記すが、第四四く四六葉のみ漢文の「家傳藥方」。跋・識語なし。料紙は中葉ゾー

紙で、やや黄變する。無界、無邊、無魚尾。上邊に葉次を鉛筆書き。毎半葉、約六行・行二〇字、小字雙行。四周雙邊の「THU VIEN / QUOC GIA」(國家圖書館)の藏印記。全書に朱點・朱引き、書き入れあり。蟲損・破損あり。

寶亭居士堅如甫撰『藥性賦』、「經穴撮要略編」『何氏祖傳三十六種實錄』『家傳集驗良方』『家傳藥方』と非醫書から抜抄の合寫本。一九世紀の筆寫か。

#### R.1895 (直解指南性藥賦)

寫本一冊、後補ベトナム四鍼眼裝。澁引き焦げ茶中手表紙、書高二八・九×幅一六・〇cm。帙なし。外題・背書なし。内封に「世醫家傳德旺阮四民」を墨書。序・目錄なし。卷首に「直解指南性藥賦」と題し、「欲惠生民、先尋性(聖)藥、天書粵(越)定南邦、土産有殊北國…」と述べて治法ごとの藥味を漢文で列記する(R.1199本にほぼ同)。次に「性藥賦」と題し、以下本文は「醫道甚大、藥用極靈、辨寒溫平熱之性、察土木草石之名…」と記し、黃耆・人參・白朮・赤芍・茯苓・地黃の順で、氣味と六字の藥性を連續して漢文で記す。末尾は…蘇木・霍香・神曲(麴)・青膏(膏)・淡竹まであり、「以上藥性之條陳、妙在學人之熟讀、爲君爲臣爲佐爲使…」を記す(R.1199本にほぼ同)。次に「氣味篇」一葉弱は漢文で金元流の氣味論。次に「性藥歌」と題し、溫性・寒性・熱性・甘味・辛味・苦味・鹹味・酸味・平味・寒涼味に分類した各藥の氣味・主治・加工等を漢文一〇二行で記す(漢喃研究所のVHv.2951『藥品

寒性賦」と類似)。次に七表八裏九道脈名の漢文脈診論、漢文の「入門審候歌」あつて小兒の虎口三關圖あり。以下は「世醫家傳演音歌」と題し、漢喃文で臨床全般の要訣を二名の筆で記し、汝初翁・景翁・馮先師の名を擧げる。また「家傳治病良方」と題する面部の漢文望診口訣あり、以下は「謹撰諸方經驗」と題する病門別の漢喃文方論書が書末まで。跋・識語なし。料紙は中葉ゾー紙で、全體に黄變する。無界、無邊、無魚尾。毎半葉、八行・行約二五字、小字雙行。四周雙邊の「THU VIEN / QUOC GIA」(國家圖書館)の藏印記。全書に朱點・朱引き、書き入れあり。蟲損なく、僅かに破損する。

『直解指南性藥賦』「氣味篇」「性藥歌」「入門審候歌」「世醫家傳」演音歌」「家傳」治病良方」「諸方經驗」などの抜抄からなる合寫本。辰(時)の避諱あつて、嗣德年間(一八四八〜八三)の筆寫らしい。

#### R.1896 (集驗癰疽)

寫本一冊八五葉、後補ベトナム四鍼眼裝。澁引き焦げ茶中手表紙、書高二五・三×幅一四・六cm。帙なし。外題ほかなし。序・目錄・内題なし。本文は治長岳(皮膚の腫痛か)門から始まり、以下は丹疽并彛症の圖・治方が第九葉まで。第二一(實際は一〇)葉に疔瘡門と題し、治方と圖説が第一八葉まで。第一九葉に「大河外科樞要目錄卷之上」と題し半葉に發背・發腦・赤瘤・瘡癰まで三五(實際は三六)門を列記。以下、第三七葉まで各門毎に上段は詩云

と題する歌賦、下段は症状・治法を列記。第三八葉から治方で、神仙金丹・奪命丹・三藥丸・人參敗毒の主治・薬味・製法・服用法を記す。第五〇葉に「秘論二十三方」と題し、定痛太乙膏・疔瘡經驗方の薬味と論を記す。以上みな漢文。第六六葉に「十三方加減」と題し、一・不換金正氣散、二・二陳、三・參蘇、四・四物、五・五苓、六・玄武湯、七・參蘇、八・小柴胡、九・靈驗對金、一〇・十補湯、一一・烏藥順氣、一二・五積、一三・四君子湯を第八五葉まで漢喃文と漢文で記す。跋・識語なし。料紙は上質の薄葉ゾー紙、僅かに黄變する。押し目罫線あつて、無魚尾。下欄に葉次を鉛筆記入。每半葉、約一〇行・行二五字、小字雙行。四周雙邊で「THU VIEN / QUOC GIA」(國家圖書館)の藏印記。全書に朱點・朱引き、書き入れあり。蟲損・破損なし。

越籍らしい『大河外科樞要』存上卷(「秘論二十三方」を含む三八〜六五葉は下巻か)、元・徐和用『加減十三方』の漢喃譯『十三方加減』の合寫本。一九世紀の筆寫か。

#### R:2010 (本國南藥品記)

寫本一冊六八葉、後補ベトナム四鍼眼裝。澁引き焦げ茶中手表紙、書高二六・三×幅一五・五cm。帙なし。外題ほかなし。序・目錄なし。書頭に「本國南藥品記」と題し、以下本文は貫衆・三奈・茅香・蘆根の順で、各薬につきベトナム名(字喃)・氣味・主治を各一行で第一二葉まで記す。末尾は官粉・敗鼓皮・葛花・荔枝・錄(糖)枇まで。第一二葉に「本國食物記」と題し、穀部・菜部・魚

部・介蟲部・禽部・獸部の順で粳米・稻米・水牛・黄牛があり、各食物につきベトナム名(字喃)、氣味・主治・禁忌を各一行に第二六葉まで記す。第二七葉に「十三方加減」と題し、漢喃文で第三〇葉まで記す。第三一葉に「一跡三車神」と題し、以下は書末第六八葉まで漢喃文で神事の方法・規則・祝文ほかを記す。漢文と漢喃文の書。跋・識語なし。料紙は薄葉ゾー紙で、やや黄變する。無界、無邊、無魚尾、欄上に葉次を記入する。每半葉、六行・行約一五字、小字雙行。四周雙邊で「THU VIEN / QUOC GIA」(國家圖書館)の藏印記。神事書部分のみ朱點・朱引きあり。かなり鼠損あり、やや破損する。

越籍の簡便本草『本國南藥品記』『本國食物記』と方論『十三方加減』の抜抄で、神事書『一跡三車神』との合寫本。一九世紀の筆寫か。

#### R:2046 (痘中雜症)

寫本一冊八一葉、後補ベトナム四鍼眼裝。表紙缺、書高二八・三×幅一五・五cm。帙なく、線厚紙で表紙様に包む。外題ほかなし。書頭を缺き、序・目錄・内題なし。まず人體圖あり、本文は漢喃文で「部位／六腑五臟歌」から。以下に五行五臟屬面部圖・初熟放標各症屬五行論・疹痘圖・五行屬面部・痘中雜症歌・疹痘手脈男左女右各圖・疹痘脈歌…あり。第九葉ウラに「疹痘卷二」を記し、以下は痘疹の症毎に論・圖・治方ほかを記す。第一五葉に第三卷、第二五葉に第四卷、第二七葉ウラに「傷寒大成中相舌法終」とある。

以下は病門別醫方書で、治方の主治・藥味・調整法を書末第八一葉まで列記。一部處方は出典を明記し、『活幼』『回春』『本草』『景岳』『入門』『國音』あり、漢喃文の書。跋なく、書末に阮春研・陶文灼・陶文東・武文志の試験成績記録があるが、本書と無關係だろう。料紙は中葉ゾー紙で、僅かに黄變する。無界、無邊、無魚尾。下欄に葉次を鉛筆記入。每半葉、九行・行約三二字、小字雙行。四周雙邊で「THU VIEN / QUOC GIA」(國家圖書館)の藏印記。全書に朱點・朱引きがあるが、書き入れ等なし。蟲損・破損なし。

越籍の『疹痘』と清の張璐父子ら『傷寒大成』の抜抄、および越籍の未詳病門別醫方書からなる。一九世紀〜二〇世紀の筆寫。

### 【分類未詳】

#### R.22 (滴嗽、筆花醫鏡)

清末一九世紀に幾度も刊行された清・江涵嗽(筆花)『筆花醫鏡』四卷に關連するか。

#### R.1702 (衛生新錄國音 [一九一七])

#### R.2087 (醫家詩策集)

#### R.2121 (醫家正宗捷效)

右四書、申請するも見つからない。